

るべしべちょうおんねゆおんせん
留辺蘂町温根湯温泉地区（北海道北見市）

完了地区

景観形成

観光

地域回遊

温泉街整備

官民協働

○計画期間 平成 20 年度～平成 24 年度
○面積 139ha
○交付対象事業費 1,943 百万円
○市人口 122,618 人（H26.4.30 現在）
（地区内人口 1,630 人）

ポイント

観光客がゆったりと温泉街で癒され、くつろげるような景観の整備と主要観光施設へ誘導できる観光案内看板の設置・地域回遊道路の整備及び豊かな森林をはじめとした自然の観光資源と共生するような農村公園の緑化整備を行うことで、来訪者のみならず地域住民にとっても心温まる温根湯温泉街の再生を目指す。

地区概要

北見市留辺蘂町は、農業・林業・観光業を基幹産業として栄え、農業では、日本有数の作付面積を誇る「白花豆」などの付加価値を高めた農畜産物加工の促進やブランド化を推進している。また、「経木」や木工クラフト製品の加工にも力を入れており、当該地区の温根湯温泉地区は、110 余年の歴史を有する北海道内屈指の温泉地として発展してきた地区である。

目標

来る人、住む人が自然とふれあい、心温まる湯の里温根湯温泉の実現を図る。

- ①温泉街再生と道の駅から観光施設へのウェルカムネットワークづくり
- ②自然（森林・水・花）と共生する観光地づくり
- ③滞在滞留し体験できる観光地づくり

指標

温泉街景観の整備と地域回遊道路の整備により、観光客や道の駅施設利用者の増加を図るとともに、つつじ公園進入道路及び公園内の整備を図ることで、地域住民の日常利用の増加を促進することを目標とした。

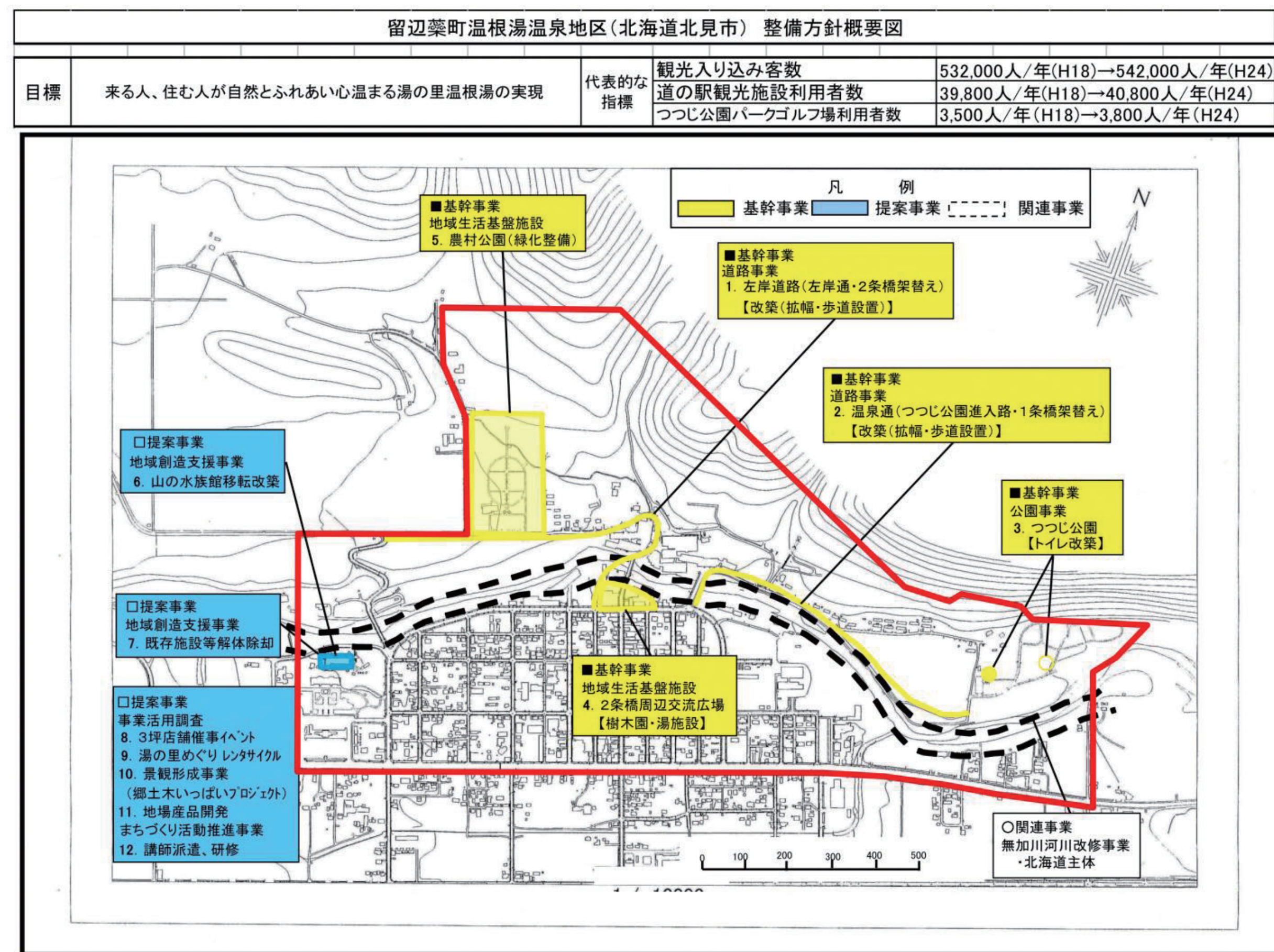
指標	従前値	評価値
観光入込客数	532,000 人 / 年 (平成 18 年度)	596,000 人 / 年 (平成 24 年度)
道の駅観光施設利用者数	39,800 人 / 年 (平成 18 年度)	215,000 人 / 年 (平成 24 年度)
つつじ公園パークゴルフ場利用者数	3,500 人 / 年 (平成 18 年度)	5,300 人 / 年 (平成 24 年度)

事業内容

基幹事業
(1,468 百万円)

提案事業
(475 百万円)

- ・道路（温泉通道路、左岸通道路、北 17 号線道路）
- ・公園（つつじ公園）
- ・地域生活基盤施設（農村公園、交流広場、温泉市街地区）
- ・地域創造支援事業（山の水族館移転改築、既存施設等解体除去）
- ・事業活用調査（3 坪店舗催事イベント、湯の里めぐりレンタサイクル、事業効果分析等、景観形成事業、地場産品開発事業）
- ・まちづくり活動推進事業（散策マップ作成事業、アドバイザー派遣・研修事業）



るべしべちょうおんねゆおんせん 留辺蘂町温根湯温泉地区（北海道北見市）

景
観
形
成

観
光

地
域
回
遊

温
泉
街
整
備

官
民
協
働

完 了 地 区

○計 画 期 間 平成 20 年度～平成 24 年度
○面 積 139ha
○交付対象事業費 1,943 百万円
○市 人 口 122,618 人（H26.4.30 現在）
（地区内人口 1,630 人）

地区の現況と課題

温根湯温泉地区は、北海道有数の温泉地として発展してきたが、観光客・宿泊客の減少とともに温泉街はシャッター街化し、当地区の人口減少と少子・高齢化は顕著な現象である。

そのため、温泉街の景観整備と魅力の創出に加え、道の駅での滞在時間を延ばす創意工夫と体験型観光へのシフト展開及び温泉街やつつじ公園へ誘導する地域回遊道路などの整備が大きな課題である。

提案事業の特徴

山の水族館移転改築事業

道の駅おんねゆ温泉の観光施設への来訪者の取り込みを図るため、施設間の連動性を持たせるよう、建物の影になっている山の水族館を既存の観光施設に隣接させ、小さいながらもインパクトのある水族館の移転改築を行う。

3 坪店舗催事イベント事業・湯の里めぐりレンタサイクル事業

空き店舗シャッター街化の現状にある温泉街にあって、夜の温泉街の魅力を創出するため、1 店舗 3 坪程度の屋台村を催事イベント社会実験として試みる。

また、温根湯温泉の観光施設や豊かな資源へ来訪者を誘導し回遊できる仕掛けとして、電動自転車のレンタル事業を社会実験として試みる。

散策マップ作成事業

温根湯温泉街の観光施設の紹介を含め、持ち歩いて散策できるようなポケットサイズのマップを作成し、道の駅等に配置する。

まちづくりの効果、 持続的取り組み

山の水族館の飛躍的な入館者数により、隣接する道の駅周辺の売店や飲食店及び温根湯温泉のホテル・旅館の集客が増加するとともに、留辺蘂地域の飲食店においても来客者の増加傾向が現れた。

このことから、山の水族館の新規開業による経済効果把握調査では、直接効果 19 億円、北見市内の産業経済への生産波及効果 29 億円という調査結果が報告され、更に開業 1 年間での経済効果は総額 42.9 億円と推計された。

また、地域回遊道路、公園、広場の整備など、景観が整ったことにより、温泉街への誘導が促進された。

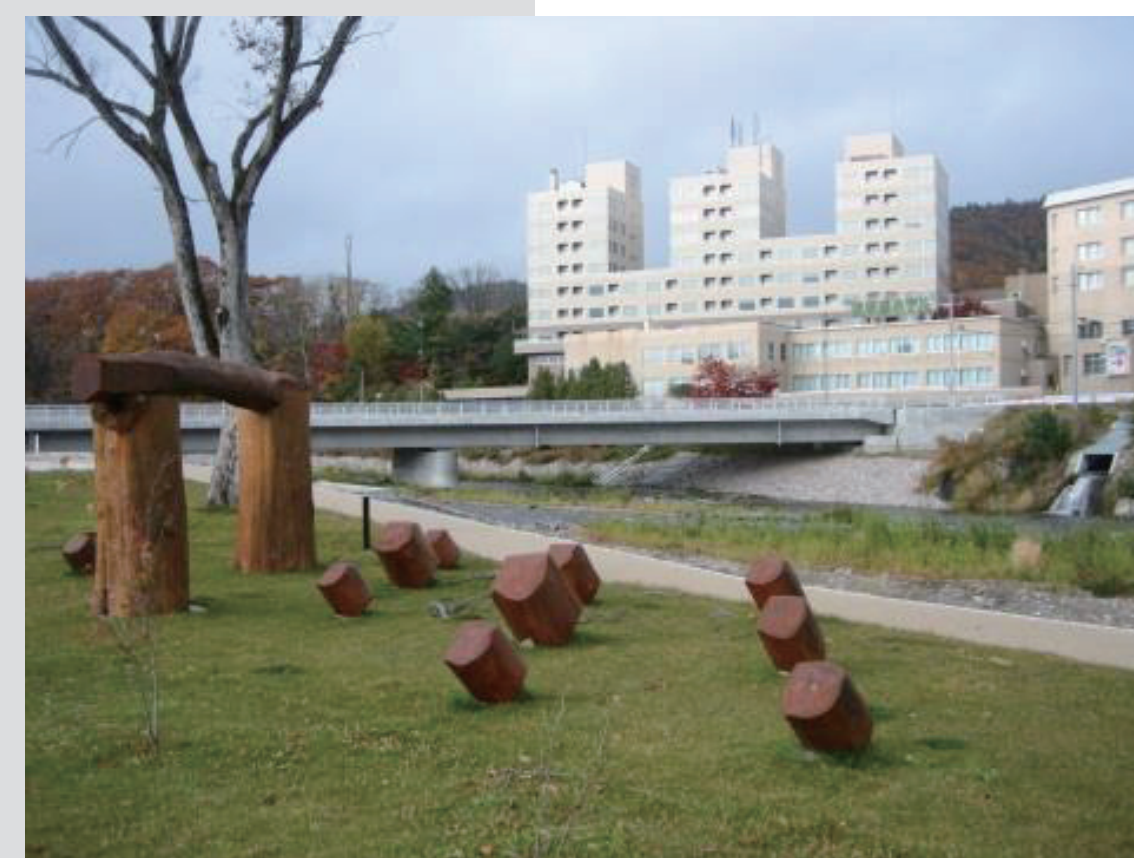
今後、山の水族館を核とした集客力の持続と水族館効果を地域全体で活かしていく市民の機運ができつつあり、温泉街の活性化とまちづくり活動への市民主体の取り組みが期待されている。



▲ 山の水族館



▲ 日本初「滝つぼ水槽」



▲ 温泉ゆめ広場のモニュメントと夢花橋



▲ 社会実験として実施した 3 坪長屋

櫻田真人 北見市長のコメント

～『山の水族館』を核とした『温泉街の再生』～

本市温根湯温泉地区では、北海道の河川改修事業を契機に道路や橋の整備に合わせた景観の整備など温泉街の再生を目指した「温根湯温泉街再生整備計画」を新市まちづくり計画の一つとし、更に留辺蘂自治区の「まちづくり協議会」においても最重要課題として取り組んでまいりました。

広場の整備や橋の架け替えといったハード事業の整備だけではなく、できるだけ市民参加や地域住民主体のまちづくりに向けたソフト事業も展開し、市民とともに一体となって取り組んだ再生事業が評価され、まち交大賞を頂いたことは大変な誇りであります。

一昨年 7 月にリニューアルオープンしました「山の水族館」においては、多くの市民の方の協力を得て、小さいながらも日本初、世界初の水槽がある水族館として全国的に注目を浴びることができました。当初、市が設定した年間目標入館者数 5 万人をわずか 1 ヶ月で突破し、オープン後 1 年 10 ヶ月で 50 万人もの方に来場していただくことができました。この飛躍的な集客により、観光入込客数は増加に転じるとともに、地域経済への波及効果が現れ、温根湯温泉街の賑わいを創出する原動力になっていると実感しております。

今後も、「山の水族館」を核とした温泉街の再生に努め、地域が一体となった温根湯温泉の活性化に取り組んでいきたいと考えております。